

「洛西ニュータウン緑のまちづくりに向けた提言書」
づくりのプロセス

元 洛西ニュータウン創生推進委員会 環境部会委員 藤原篤

1. ここののはじまり

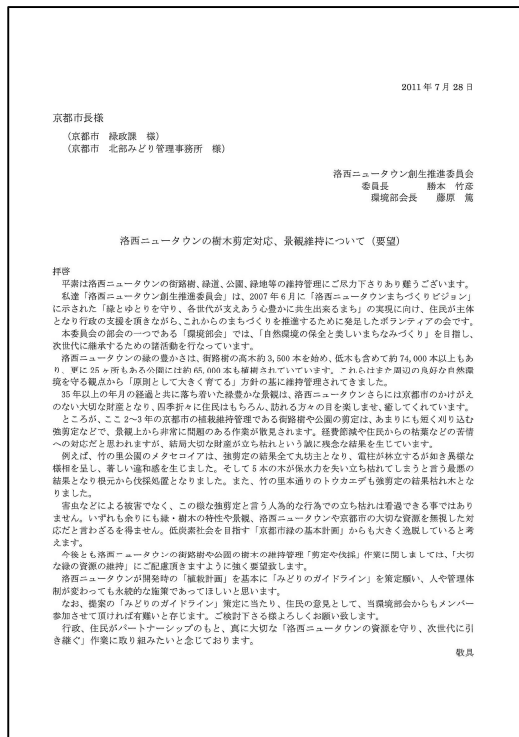
洛西ニュータウンは、京都市の事業として一九六九年に都市計画決定、事業決定され、その後、京都大学上田研究室によるマスタープランをもとに、設計・工事が行われ、一九七六年より入居が開始された、緑豊かで、きわめてすぐれた特徴を持った山紫水明のニュータウンである。

洛西ニュータウンの入居開始から三十年以上たち公園や街路の樹木が大きく育った一方、強剪定（枝を切りすぎること）による立ち枯れや、混植による街路景観の不統一



電柱のように強剪定されたメタセコイヤ

などが見られ始め、洛西ニュータウン創生推進委員会1)（以下創生推進委員会とする）の環境部会では、これらを問題視する意見が多く出ていた。



洛西ニュータウンの樹木剪定対応、景観維持について（要望）

それを受け、平成二十三年七月、同部会では、洛西ニュータウンのみどりの管理・維持に關しての指針策定についての要望書「洛西ニュータウンの樹木剪定対応、景観維持について（要望）」（資料編参照）を市長あてて提出した。

並行して、同部会ではニュータウン内の緑の管理を重点項目とした、いわゆる「緑のガイドライン」づくりを、一般市民も交え、勉強会などを開催しながら進めていこうということになった。

それにむけて、環境部会では以下のような議論の方向性について検討した。

① 「緑のガイドライン」の作成と京都市の連携について

環境部会が中心となって作成し、創生推進委員会から京都市へ提出する。

② 「緑のガイドライン」の役割について

京都市が樹木管理を行うときの指針としてもらう。

③ デザインポリシー²⁾の共有について

洛西ニュータウンの植栽の特徴について、現状の認識と共有管理対象樹木の類型化（場所と樹種）と類型ごとの基本方針の共有を行う。

④ その他

1) 創生推進委員会は、それまでの住民活動からの要請を受け平成十九年京都市が地元で自治連合会などに呼び掛けて作った住民によるまちづくりを進める組織で、環境部会、子供部会、交通部会などからなる。

2) 洛西ニュータウンの「デザインポリシー」とは、都市計画学会による「京都市洛西新市街地開発事業地における景観構成に関する調査報告書」(1973.3)における計画当初のデザインの基本指針、洛西ニュータウン創生推進委員会主催のまちづくり勉強会(2009.10)における、上田篤京都精華大学名誉教授(洛西ニュータウン計画者)による講演「洛西ニュータウン誕生から未来へ」、および建設当時植栽計画の担当技師であった平井義昌氏による講演「洛西ニュータウンの植栽計画」において公表された計画にあたっての基本方針を示すもので、「森の中のニュータウン」「幹線道路を緑のトンネルに」などがしめされている。

2. 実態の把握と合意形成にむけて

環境部会では、まちづくり活動として、樹木の管理の改善に向けて、一般市民とともにまち歩きを行い、街路樹や公園樹木の実情を共有しながら、京都市緑政課と連携して洛西ニュータウンの街路樹や公園樹など、緑の管理に関する提言書を作成することとした。

(1) みんなで実情を知ろう

環境部会では、緑の管理に関する提言書を住民主体でつくろうということで、まずは一般市民とともに街路樹や公園樹木の実態を知ろうということになった。

樹木管理の実態調査の一環として、平成二十四年二月二十六日、環境部会主催の「洛西ニュータウンの樹木みて歩き」を行った。

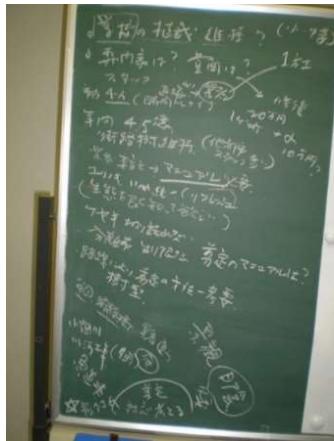
肌寒い天気のもと、住民四十四人と緑政課担当職員に参加により、剪定されたばかりの街路樹や、根上がりにより傷んだ歩道の補修工事、強剪定された公園の樹木など、樹木管理の実態を見てまわった。

最後に竹の里会館に合流して、あったかいコーヒーを飲みながら、今回見てまわった樹木管理について、問題のあるものについてはレッドカード・イエローカード、良いと

ころはグリーンカードに記入して、これからの洛西ニュータウンの樹木管理のあり方について話し合った。



みんなで街路樹を見て歩く



話し合いで出された意見



話し合いで出された意見 (ポストイット)



出された意見をレッドカード、イエローカード、グリーンカードに

(2) 行政との連携

「洛西ニュータウンの樹木みて歩き」に際しては、京都市緑政課（現みどり政策推進室）職員からは、専門的知識にもとづく樹木の枯れなど説明いただき、実際の提言書作成にあたっては、様々なアドバイスをいただいた。

また、緑の管理に関する提言書（「緑のガイドライン」を提言書と呼ぶこととした）策定にあたっては、たまたま住民組織の中にニュータウン建設当時の樹木担当の職員（OB）がいたことから、京都市緑政課（現みどり政策推進室）職員との人的連携がスムーズであった。

(3) 新聞への掲載

緑の管理に関する指針づくりに関する住民の活動は、地方紙にも掲載され、ニュータウンの樹木の実情や緑のまちづくりの必要性について、広く住民にも意識が共有されるようになった。

剪定法や街路樹の統一…

植栽の指針作り着々

まちづくりの基本に

京都市西京区の洛西ニュータウンの住民らでつくる「洛西ニュータウン創生推進委員会」と市が、タウン内の木の植栽に関するガイドライン作りを進めている。剪定で枝が切れ過ぎて電柱のようになり、通りごとに統一していた街路樹の種類がはらになつてきているケースが見られるため、まちづくりを考えるきっかけにしたいという。



所々に枯れてしまったような樹木も見られるようになった洛西ニュータウン（京都市西京区）

ケヤキ並木の緑のトンネルや紅葉など、季節ごとに通りの見どころがあり、地域の魅力となってきた。だが近年、落ち葉対策などのため、枝を切られ過ぎるケースが目立ってきた。街路樹の無計画な植樹や、枯れた木も見られるまじりになり、昨年7月、同委員会が市緑政課などにガイドライン作成を提案し、議論を進めてきた。

樹種に応じて剪定方法を変えるなど、街の緑を美しく守る基本指針を定め、行政と住民で共有したいとしている。

今後、幅広く住民に参加してもらい、現状を観察した上で議論を深める。

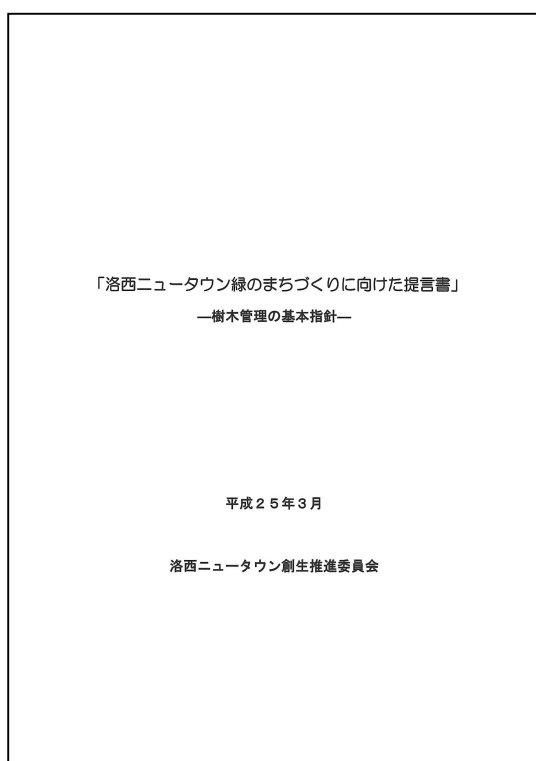
同委員会環境部会長の藤原篤さん（55）は「洛西ニュータウンは計画都市。長年の間に、緑を生かしたまちづくりの指針が曖昧になってきたので、大きな方向性を考えていきたい」と話す。

（山田修裕）

京都新聞に掲載された植栽の指針づくり活動

(4) 提言書提出

環境部会での議論と行政担当所との議論を経て、計画当初の優れた「デザインポリシー」をもとに、洛西ニュータウンの特徴ある植栽を生かし、さらに豊かで美しい緑環境を形成・管理していくための基本指針「洛西ニュータウンのまちづくりに向けた提言書」（資料編参照、以下「緑の提言書」という）全八ページがつくられ、平成二十五年三月、京都市長に提出された。



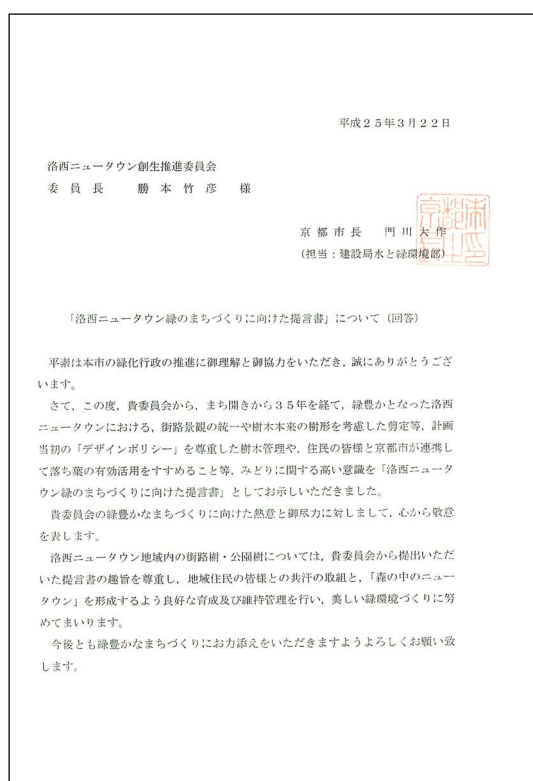
「緑の提言書」表紙

3. 成果

提出された「緑の提言書」に対して、平成二十五年三月、京都市長からは、

「提言書の趣旨を尊重し、地域住民の皆様と共汗の取り組みと、「森の中のニュータウン」を形成するよう、良好な育成、及び維持管理を行い、美しい緑環境づくりに努めてまいります。」

との回答(資料編参照)があった。



「緑の提言書」への市長からの回答



市長からの回答書を受け取る創生推進委員会委員長

4. その後の展開

その後、「緑の提言書」は、洛西ニュータウンの街路樹や公園の緑の管理における規範として運用されており、たとえば、けやき並木の剪定も樹形に影響を与えない範囲での剪定にとどめられ、秋には、緑、黄色、赤と変化する紅葉のトンネルが見られる。

このけやき並木の通りには、愛称の住民公募が行われ、平成二七年二月、洛西ニュータウン通りの愛称づくり委員会の選定会において「洛西けやき通り」という愛称が選ばれ、「イメージによるまちづくり」が進められるとともに、毎年催されているけやき並木の紅葉のライトアップや並木道を使った「光のギャラリー」も、洛西ニュータウンの樹木の魅力を体験できるイベントとして多くの市民に親しまれている。



ライトアップされたけやき並木と「光のギャラリー」



毎年夏になると赤い花が咲く境谷中通りのサルスベリの並木

また、以前は桐などいくつもの樹種が混在していた境谷中通りの樹種は、サルスベリに統一され、毎年八月になると赤い花が咲き、住民にとっては、洛西の夏を彩る風物詩となっている。

5. 課題と展望

洛西ニュータウンでは、「緑の提言書」が提出された後の緑の管理は、おおむね提言書に沿って行われており、当初のデザインポリシーに沿った緑のまちづくりが進められている。

「緑の提言書」は、たまたま住民委員が緑の担当部局のOBであったため、住民と行政との連携が極めてうまくいった事例であった。

一般的なまちづくり組織の場合、そのような偶然があるとはかぎらないので、連携の方法などはそれぞれのケースに応じてつくっていかねければならないかもしれない。

ところで、洛西けやき通りでは、街路樹の成長に伴って上空の電線と干渉するなどの新しい問題が発生してきている。このような問題についても、電柱を管理する関係部局とも連携し、森の中のニュータウンにふさわしい景観づくりを進めることが望まれる。

具体的には、単に緑の管理にとどまらず、ケヤキ並木上空の電線の地中化など、積極的に美しい街並み形成を行っていくような方策についても、財政の問題なども考慮しつ

つ、市の各部署が横断的に連携しながら進めていくことが望まれる。

資料編

平成25年3月6日

京都市長
門川大作 様

洛西ニュータウン創生推進委員会委員長
勝本 竹彦

「洛西ニュータウン緑のまちづくりに向けた提言書」について

京都市におかれましては、洛西ニュータウンおよびまちづくり活動を進める洛西ニュータウン創生推進委員会へのご支援、いつもありがとうございます。

このたび、洛西ニュータウン創生推進委員会では、「洛西ニュータウン緑のまちづくりに向けた提言書」（以下「提言書」とする）を作成いたしました。

京都市として、この「提言書」に基づいた洛西ニュータウンの緑の管理行政を行っていただくことを望むものです。

「提言書」作成に至った経緯と概要は、以下のとおりです。

洛西ニュータウンは、京都市の事業として1969年に都市計画決定、事業決定され、その後、京都大学上田研究室によるマスタープランをもとに、設計・工事が行われ、1976年より入居が開始された、緑豊かで、きわめてすぐれた特徴を持った山紫水明のニュータウンです。

ところが、まち開きから35年がたち、樹木が大きく育った一方、強剪定による立ち枯れや混植による街路景観の不統一などが見られ始めています。

まち全体が、緑豊かで、きわめてすぐれた特徴を持ち、落ち葉の有効利用など住民の緑に関する意識も高いことから、京都市の一般市街地とは違った、洛西ニュータウンのための緑の管理に関する指針が必要ではないかということになり、この「提言書」を作成いたしました。

この「提言書」は、計画当初の優れた「デザインポリシー」[※]をもとに、洛西ニュータウンの特徴ある植栽を生かし、さらに豊かで美しい緑環境を形成・管理していくための基本指針です。

[※] 本「提言書」において、洛西ニュータウンの「デザインポリシー」とは、都市計画学会による「京都市洛西新市街地開発事業地における景観構成に関する調査報告書」（1973,3）における計画当初のデザインの基本指針、洛西ニュータウン創生推進委員会主催のまちづくり勉強会（2009,10）における、上田篤京都精華大学名誉教授（洛西ニュータウン計画者）による講演「洛西ニュータウン誕生から未来へ」、および建設当時植栽計画の担当技師であった平井義昌氏による講演「洛西ニュータウンの植栽計画」において公表された計画にあたっての基本方針を示すものです。

「洛西ニュータウン緑のまちづくりに向けた提言書」

—樹木管理の基本指針—

平成25年3月

洛西ニュータウン創生推進委員会

はじめに

洛西ニュータウンは、京都市の事業として 1969 年に都市計画決定、事業決定され、その後、京都大学上田研究室によるマスタープランをもとに、設計・工事が行われ、1976 年より入居が開始された。総面積 261ha、南北約 2km で、中央に小畑川が流れ、三方を山や小高い丘に囲まれた、小さな京都盆地のような山紫水明の地勢である。

まち開きから 35 年がたち、樹木が大きく育った一方、強剪定による立ち枯れや混植による街路景観の不統一などが見られ始めている。

「洛西ニュータウンまちづくりに向けた提言書」（以下「提言書」とする）は、計画当初の優れた「デザインポリシー」[※]をもとに、洛西ニュータウンの特徴ある植栽を生かし、さらに豊かで美しい緑環境を形成・管理していくための基本指針とするものである。

※) 本「提言書」において、洛西ニュータウンの「デザインポリシー」とは、都市計画学会による「京都市洛西新市街地開発事業地における景観構成に関する調査報告書」（1973,3）における計画当初のデザインの基本指針、洛西ニュータウン創生推進委員会主催のまちづくり勉強会（2009,10）における、上田篤京都精華大学名誉教授(洛西ニュータウン計画者)による講演「洛西ニュータウン誕生から未来へ」、および建設当時植栽計画の担当技師であった平井義昌氏による講演「洛西ニュータウンの植栽計画」において公表された計画にあたっての基本方針を示すものとする。

洛西ニュータウン緑のまちづくりに向けた提言書

—樹木管理の基本指針—

はじめに

1. 目的と対象

- 1) 目的
- 2) 対象

2. 洛西ニュータウンの「デザインポリシー」と植栽計画

- 1) 森の中のニュータウン
- 2) 街路樹を緑のトンネルに
- 3) 小学校をむすぶ回遊緑道
- 4) 公園は緑道のへびタマだ

3. 現状と課題点

- 1) 街路樹
- 2) 緑道
- 3) 公園緑地

4. 植栽管理の基本指針

- 1) 街路樹
- 2) 緑道
- 3) 公園緑地

5. 住民とともに成熟する洛西ニュータウンの緑

1. 目的と対象

1) 目的

本「提言書」は、以下の事柄を目的とする。

- ① 計画当初のすぐれた「デザインポリシー」と、現在の個性的で魅力ある洛西ニュータウンの緑の特徴を、行政と住民が理解・共有し、将来に受け継ぐ。
- ② まち開きから 35 年を経た現在の樹木管理の課題点を把握し、今後の樹木管理の基本的な方向性を住民と行政が共有することにより、「森の中のニュータウン」洛西の、豊かで潤いのある緑環境と、美しい緑景観の形成に寄与する。
- ③ 洛西ニュータウンにおける行政による樹木管理の基本指針の恒常性・継続性をサポートする。

2) 対象

本「提言書」は、洛西ニュータウンの公共的空間（街路、自転車・歩行者専用道（以下緑道とする）、公園緑地）の樹木や植栽の、剪定や植え替えなどの管理にかかわる事柄を対象とする。

2. 洛西ニュータウンの「デザインポリシー」と植栽計画

洛西ニュータウンは、約 40 年前に計画された魅力ある計画都市である。洛西ニュータウンの建設当時のデザインの基本指針である「デザインポリシー」をまとめると、以下のようになる。

1) 森の中のニュータウン

「森の中のニュータウン」にふさわしい植栽計画とし、既存の樹木・竹藪等はできるだけ保存し、新たに植栽される公園樹や街路樹は、年間を通じて花や紅葉が楽しめる樹種とする。

2) 街路樹を緑のトンネルに

・幹線道路には歩道のほかに街路樹の敷地をもうけ、積極的に街路樹をうえる。その街路樹は、よく日本の都市の街路樹にみかけるように、やたら木の葉を剪定したり丸坊主にしたりするものではなく、木々をすくすくのぼしてヨーロッパの街路樹のように緑のトンネルをつくる。

・街路樹は、サクラやケヤキやイチョウなど風土に合った樹種とする。仙台ではケヤキがうえられた。電柱がないからケヤキはすくすくそだつてうつくしい樹形をつくり、たいそう評判になった。春はサクラ、夏はケヤキ、秋はイチョウといったように三つのシーズンにそれぞれ盛りをむかえ、冬はケヤキの枯れ枝がとてもロマンチックだ。洛西には春夏秋冬の楽しい並木道をつくる。

・洛西ニュータウンの道路は、ほとんどが地形に沿って曲がった個性的な街路であり、街路樹は、9路線約14kmの道路ごとに樹種を選び、同一路線内で樹種は変えないものとする。主要道路は、ケヤキ、ナンキンハゼ、トウカエデ、クスノキ、ユリノキ、イチョウ、エンジュ、モミジバフウ、アオギリ、トチノキ、シナサワグルミの並木道とする。

3) 小学校をむすぶ回遊緑道

公園、学校、タウンセンターなどをつなぐ緑道のネットワークは、安全、快適な歩行者専用路および自転車道となる。人々の憩いと散策の場とするよう計画され、アキニレ、サクラ等を植栽し、緑道ごとの変化を持たせている。

4) 公園は緑道のヘビタマだ

公園はみな回遊緑道でつながっており、ヘビが卵をのんだように、公園のところだけはいわば回遊緑道がふくらんだような形にしている。

公園は、既存の樹木・竹藪等ではできるだけ保存し、特に優良なものについては、これらの保存を前提とし、新林池公園、大蛇が池公園では、既存の植生である、孟宗竹、コナラを生かす。園路通行者の進行方向には、常にアイストップを用意し、園路歩行者からみて好ましいものとなるようにする。

3. 現状と課題点

建設から35年を経て、洛西ニュータウンは、緑豊かな魅力あるまちに育ってきた。

四季の移り変わりや街路樹の緑のトンネルなど、緑の豊かさが住民アンケートでも洛西ニュータウンの魅力の一位に挙げられている一方で、大きく育った木々の剪定の方法や、街路樹の樹種の不統一など、当初の緑を生かしたまちづくりの「デザインポリシー」が乱れてきている。

1) 基礎データ

洛西ニュータウン内の樹木数は、次のとおりである。

・街路樹

高木：約3,500本（西京区全体では、約7,000本）

低木：約70,000本（西京区全体では、約130,000本）

・公園

高木：約8,800本

中木：約2,500本

低木：約54,000本

2) 街路樹

洛西ニュータウンではとりわけケヤキがりっぱに生育している。このような街路樹は仙台をのぞけば日本にあまりない。

まちびらき当初、主要道路にはそれぞれ統一した街路樹が植えられ、特徴ある並木道を形成していたが、近年枯れるなどの事情により、当初の樹種と異なる樹木が植えられる場合が見られるほか、植えられた土地の性質に合わないためか、成長が芳しくない街路樹も見えはじめてきている。また、大きく育った根が歩道を持ち上げ歩行者の通行に支障が生じたり、成長した幹がガードレールに食い込むなどの問題も発生してきている。そのほか、サクラ等で害虫を初期段階で退治することができず、大きな被害へとつながっているケースも見られる。

2) 緑道

全長約7kmの緑道は、緑道ごとの特徴がみられる一方、成長した樹木の根上がりにより、車いすでの通行や歩行に支障をきたす例も見られる。

3) 公園

公園ごとに原植生や水面を生かした特徴ある景観を持ち、美しいランドマークツリーのある公園などがある。

その一方で、美しい樹形をしたメタセコイヤが電柱のように剪定された問題や、住宅が隣接する所では、細かい落ち葉が雨樋に詰まるなどの問題も発生してきており、伐採をする場合の住民との合意形成の方法などの課題も指摘されている。

4. 植栽管理の基本指針

植栽管理にあたっては、計画当初の「デザインポリシー」を基本とし、豊かで特徴ある緑環境の形成を行うものとする。

1) 街路樹

街路樹の持つ機能や効能は多く、歩行者への日陰の提供、並木による潤いのある沿道景観の形成のほか、ケヤキ1本で年間約350kg(人の呼吸の年間二酸化炭素排出量は約320kg)もの二酸化炭素を吸収するなど、地球温暖化防止にも貢献している。

街路樹管理の基本指針は、以下のとおりとする。

- ①街路樹の樹種は、通りごとに統一した樹種とする。
- ②道路改修や、立ち枯れなどによる植え替えに伴う街路樹の樹種の選定に際しては、土地の性質に対して生育に適したものとするほか、沿道住民の意向を尊重したものとする。
- ③樹種や周辺環境を考慮した剪定方針とする。

- ・特に全国街路樹百選に選ばれ、緑のトンネルを形成している新林本通りについては、樹形を維持し、枯れ枝の切除を基本とする。ただし、街路樹が道路法上の道路付属物であることから、交通標識、信号、街路照明、電線等に支障のある枝や、民地越境枝、建築限界（車道 4.5m、歩道 2.5m）の枝については、適宜剪定を行うものとする。
- ・その他の街路樹は、樹種に応じた適正な剪定や姿かたちを整える剪定（整姿剪定）及び「枝抜き剪定」を基本とし、原則として2段階剪定は行わない。ただし、成長により倒伏の恐れがあるものについては、適宜剪定を行うものとする。
- ・隣接した住宅地との十分な距離がある場合には、極力剪定を避けるものとする。

2) 緑道

緑道は、低木や高木を生かした美しい景観づくりを行うとともに、周辺住民や小中学生に親んでもらえるような管理方法を考慮する。

3) 公園緑地

それぞれの公園ごとに、公園の特性や環境に応じた管理を行うものとするが、以下のことがらを共通の指針とする。

- ①樹木本来の樹形を考慮した形態に剪定するものとする。
- ②防犯に考慮し、場所の特性に応じて死角が生じにくい剪定とする。
- ③住宅に近く雨樋に詰まりやすい葉の小さな樹種については、今後間伐なども考慮するものとする。

4) 落ち葉

落ち葉は、シャンソンに歌われるなど都市生活の秋の風情でもある。公園樹や街路樹の落ち葉は、単にゴミとして処分するのではなく、堆肥作り等により周辺農家や園芸愛好家に使ってもらするなど、行政と連携して有効活用をすすめるものとする。

5. 住民とともに成熟する洛西ニュータウンの緑

- 1) 本「提言書」は、樹木管理の基本的指針を示すものであるが、今後様々なケースが考えられるため、個々の樹木管理については、「提言書」の趣旨に沿った管理をすすめていくものとする。
- 2) 緊急時等を除き原則として、樹木の伐採にあたっては、事前に周辺住民と協議を行うものとする。
- 3) 害虫対策として、住民と連携して被害発生の初期段階で被害把握を行い、速やかな害

虫駆除により被害拡大を防ぐ。

- 4) 街路の改造など樹木に関する大幅な改修がある場合には、住民と行政が協力して植栽計画づくりを行うものとする。
- 5) 本「提言書」は、洛西ニュータウンの豊かで美しい緑環境づくりをめざすものである。洛西ニュータウンで大きな面積を占める、UR、市営、府営集合住宅などに対しても、本「提言書」の趣旨の浸透につとめ、力をあわせて洛西ニュータウンの豊かで美しい緑環境づくりを行う。
- 6) 街路樹足元、緑道、公園緑地の植栽は、原則市が行うものであるが、住民によって植栽が行われる場合には、市および周辺住民の合意を得た、統一感のあるものとする。

平成25年3月22日

洛西ニュータウン創生推進委員会

委員長 勝本竹彦様

京都市長 門川大作

(担当：建設局水と緑環境部)



「洛西ニュータウン緑のまちづくりに向けた提言書」について（回答）

平素は本市の緑化行政の推進に御理解と御協力をいただき、誠にありがとうございます。

さて、この度、貴委員会から、まち開きから35年を経て、緑豊かとなった洛西ニュータウンにおける、街路景観の統一や樹木本来の樹形を考慮した剪定等、計画当初の「デザインポリシー」を尊重した樹木管理や、住民の皆様と京都市が連携して落ち葉の有効活用をすすめること等、みどりに関する高い意識を「洛西ニュータウン緑のまちづくりに向けた提言書」としてお示しいただきました。

貴委員会の緑豊かなまちづくりに向けた熱意と御尽力に対しまして、心から敬意を表します。

洛西ニュータウン地域内の街路樹・公園樹については、貴委員会から提出いただいた提言書の趣旨を尊重し、地域住民の皆様との共汗の取組と、「森の中のニュータウン」を形成するよう良好な育成及び維持管理を行い、美しい緑環境づくりに努めてまいります。

今後とも緑豊かなまちづくりにお力添えをいただきますようよろしくお願い致します。